

(平 成 2 9 年 版)

大分県における救急の現況

大分県生活環境部防災局消防保安室

平成29年版大分県における救急の現況」の要点

1 救急業務の実施状況

(1) 救急出動件数及び搬送人員ともに過去最多を記録

平成28年中の救急自動車の救急出動件数は、前年に比べ2,054件増(3.9%増)の54,177件、搬送人員は、前年に比べ1,620人増(3.4%増)の49,657人で、出動件数の増加傾向は止まらず、過去最高となった。

(2) 管外搬送人数は増加

平成28年中の消防本部が自らの管轄地域外の医療機関に搬送した人数(管外搬送人数)は、前年に比べ401人増の8,633人で、全救急搬送人員に占める管外搬送人数の割合は、17.4%(0.3%増)となった。

消防本部の管轄地域と2次又は3次医療機関の所在地との相関で、消防本部間の差が顕著となっている。

(3) 現場到着までの平均所要時間は前年と同様・病院収容までの平均所要時間は長く

平成28年中の現場到着までの平均所要時間は、前年と同様の8.1分、病院収容までの所要時間は、前年に比べ0.2分増の35.2分となった。

なお、平成28年中の全国の現場到着までの平均所要時間は8.5分、病院収容までの平均所要時間は39.3分となっている。

2 救急搬送の状況

(1) 事故種別の搬送人員は、「急病」が依然として半数以上

平成28年中の事故種別の搬送人員では、「急病」が前年に比べ1,063人増の28,569人で、全体の57.5%を占めており、依然として高い割合となっている。

(2) 年齢区分別の搬送人員は、「高齢者」が60%超を占める

平成28年中の年齢区分別の搬送人員では、「高齢者」が前年に比べ1,767人増の32,303人で、全体の65.1%を占めており、全国平均の57.2%を7.9ポイント上回っている。

(3) 傷病程度別の搬送人員は、「中等症」と「軽症」が高い割合

平成28年中の傷病程度別の搬送人員では、「中等症」が前年に比べ、1,354人増の23,572人で、全体の47.5%を占めており、全国平均の41.0%を6.5ポイント上回っている。

「軽症」は、前年に比べ4人減の17,190人で、全体の34.6%を占めており、全国平均の49.3%を14.7ポイント下回っている。

3 救急業務の実施体制

(1) 救急隊員数、救急救命士数は増加

平成29年4月1日現在における救急隊員数は、前年に比べ124名増加し734名で、そのうち救急救命士の資格を有する職員は、前年に比べ11名増の310名となっており、救急隊員数に占める割合は42.2%となっている。

出動する隊員のうち少なくとも1名が救急救命士である「救急救命士運用隊」の数は60隊で、全救急隊数に占める割合は100%となっている。

(2) 高規格救急自動車数は増加、しかし導入率は依然として全国平均を下回る

平成29年4月1日現在の救急救命士による高度な処置が可能な「高規格救急自動車」台数は、前年と比べ5台増の70台で、全救急自動車台数74台に占める割合は94.6%となったが、全国の平均導入率98.9%を下回っている。

4 救急救命措置の実施状況

(1) 救急救命士による特定行為実施件数の増加

平成28年中における救急救命士による特定行為実施件数は、前年に比べ320件増の1,189件で、年々確実に特定行為の実施件数は増加している。

(2) 消防機関による救急救命講習は9年連続で1万人を超える

平成28年中における救急救命講習を受講した住民は、10,188人で、1万人を超えている。

1 救急業務の実施状況

【平成 28 年中における救急業務の実施状況】

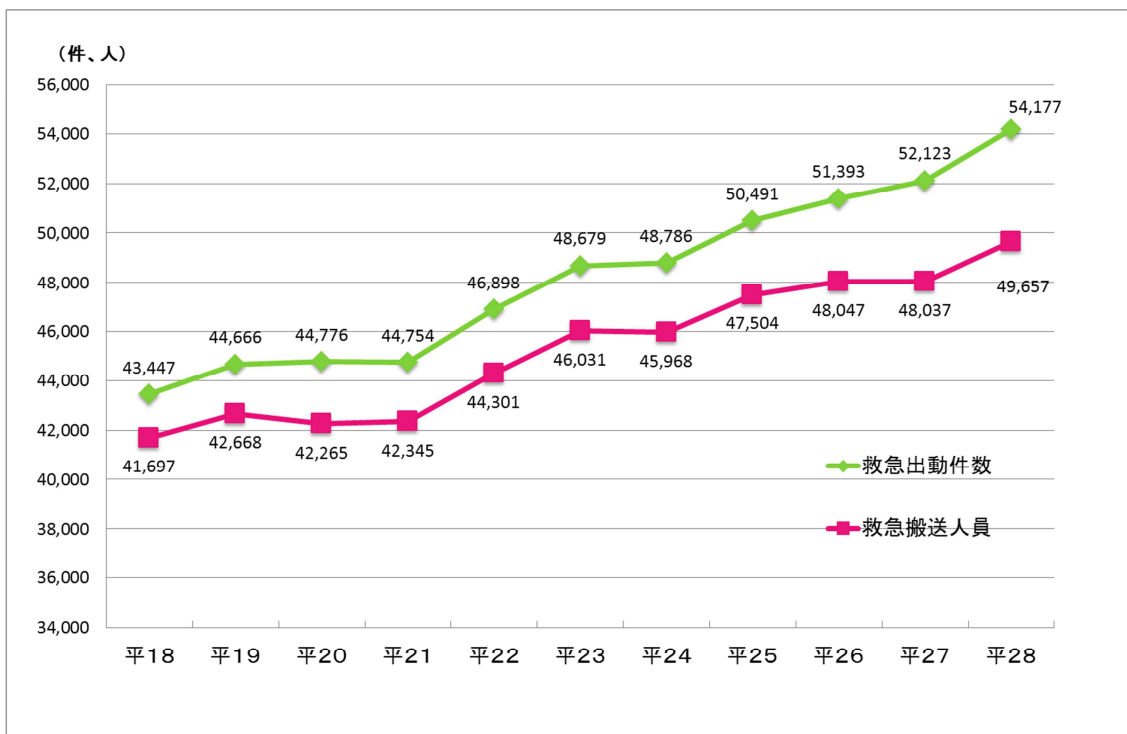
1. 救急出動件数 54,177 件（前年比 2,054 件増）
2. 救急搬送人員 49,657 人（前年比 1,620 人増）
3. うち管外搬送人員 8,633 人（前年比 401 人増）
【総搬送人員に占める割合 17.4 %（前年比 0.3 ポイント増）】
4. 現場到着所要時間 8.1 分（前年比 同じ）
【全国平均 8.5 分】
5. 医療機関収容所要時間 35.2 分（前年比 0.2 分増）
【全国平均 39.3 分】

第 1 表 各消防本部における救急出動件数及び救急搬送人員（単位：件、人）

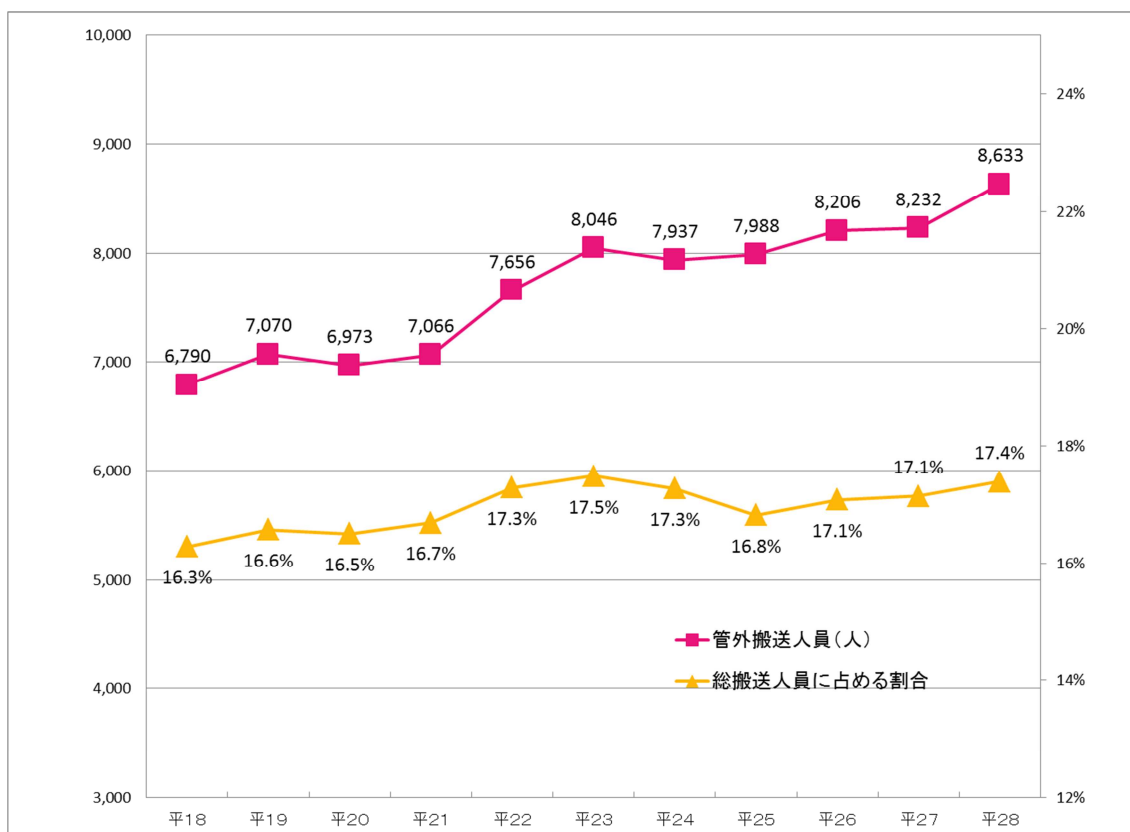
消防本部	救急出動件数 (件)		救急搬送人員 (人)				管外搬送率 b/a(%)	
		前年比	(a)	前年比	うち管外搬送 (人)(b)	前年比		前年比
大分市消防局	18,749	900	16,394	564	599	△ 3	3.7%	△ 0.1
別府市消防本部	6,543	176	6,035	150	131	△ 15	2.2%	△ 0.3
中津市消防本部	3,937	232	3,649	218	482	39	13.2%	0.3
佐伯市消防本部	3,252	123	3,046	139	375	59	12.3%	1.4
臼杵市消防本部	2,346	293	2,225	289	710	125	31.9%	1.7
津久見市消防本部	1,147	48	1,083	32	310	20	28.6%	1.0
竹田市消防本部	1,477	△ 102	1,412	△ 45	502	△ 76	35.6%	△ 4.1
豊後高田市消防本部	1,455	109	1,390	100	725	89	52.2%	2.9
宇佐市消防本部	2,940	54	2,794	39	722	53	25.8%	1.6
豊後大野市消防本部	2,113	△ 25	1,999	△ 52	766	△ 52	38.3%	△ 1.6
由布市消防本部	1,808	57	1,727	80	1,087	22	62.9%	△ 1.7
国東市消防本部	1,478	33	1,403	20	396	97	28.2%	6.6
日田玖珠広域消防組合消防本部	4,208	42	3,952	△ 37	416	△ 7	10.5%	△ 0.1
杵築速見消防組合消防本部	2,724	114	2,548	123	1,412	50	55.4%	△ 0.7
県計	54,177	2,054	49,657	1,620	8,633	401	17.4%	0.2

(平成28年中)

第1図 救急出動件数及び救急搬送人員の推移



第2図 管外搬送人員の推移

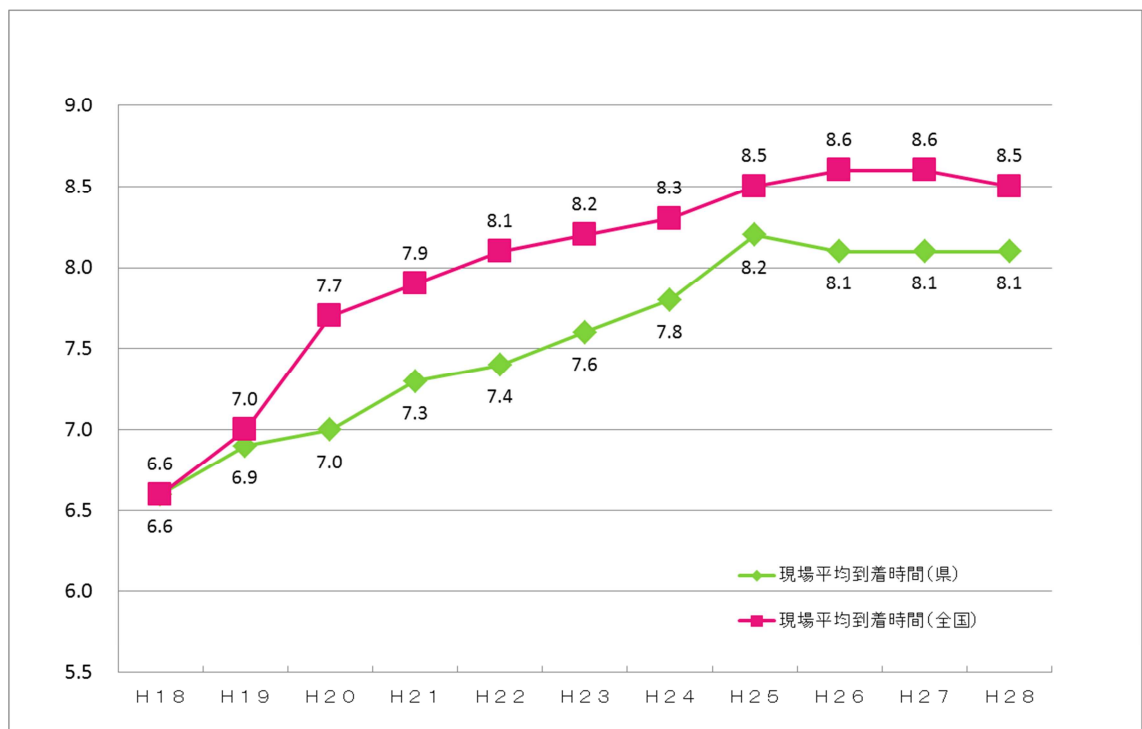


第2表 各消防本部における現場平均到着所要時間及び収容平均所要時間

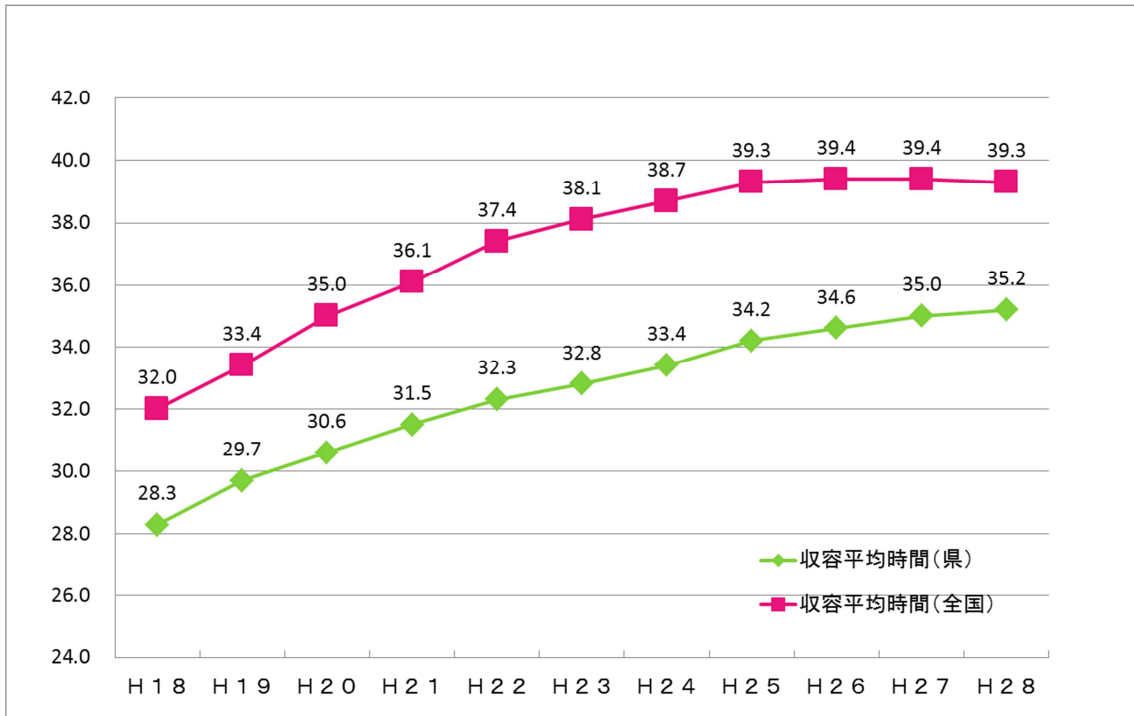
消防本部	現場到着 平均所要時間(分)		収容 平均所要時間(分)	
		前年比(分)		前年比(分)
大分市消防局	6.7	0.0	28.4	0.2
別府市消防本部	7.1	△ 0.6	28.4	△ 6.6
中津市消防本部	8.6	△ 0.1	37.5	7.8
佐伯市消防本部	11.1	△ 0.1	42.0	0.0
臼杵市消防本部	7.5	0.0	33.2	1.2
津久見市消防本部	9.2	3.5	37.7	4.5
竹田市消防本部	10.0	△ 0.4	42.7	△ 1.9
豊後高田市消防本部	8.3	0.1	38.6	1.0
宇佐市消防本部	8.4	0.0	38.1	△ 0.3
豊後大野市消防本部	8.9	0.0	42.1	△ 0.4
由布市消防本部	8.5	1.0	40.7	2.3
国東市消防本部	7.9	0.0	48.4	3.5
日田玖珠広域消防組合消防本部	10.8	0.5	45.9	2.0
杵築速見消防組合消防本部	10.4	△ 0.2	41.2	△ 0.7
県計	8.1	0.0	35.2	0.2

(平成28年中)

第3図 現場平均到着所要時間の推移



第4図 病院収容平均所要時間の推移



2 救急搬送の状況

【平成28年中における救急搬送の状況】

1. 事故種別搬送状況

「急病」が最も多く【28,569人(57.5%)】、増加傾向【前年比1,063人増】にある。
その他の区分は、近年、横ばい状態である。

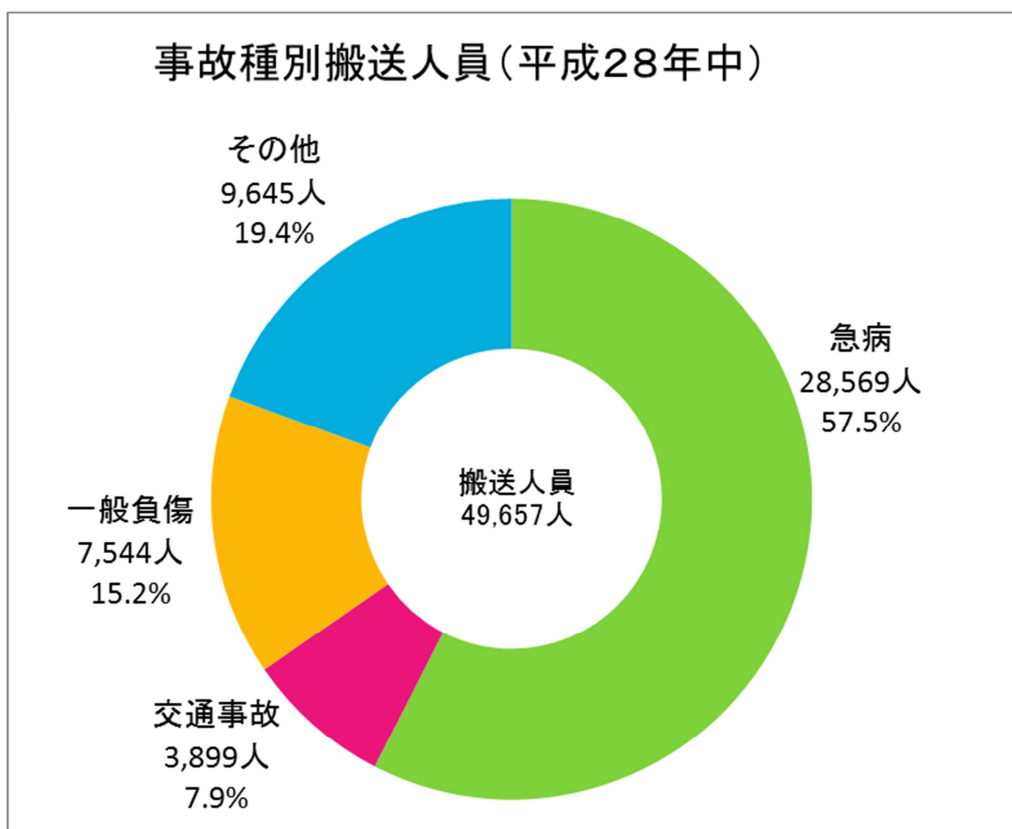
2. 年齢区分別搬送状況

「高齢者」が最も多く【32,303人(65.1%)】、増加傾向【前年比1,767人増】にある。
その他の区分は、近年、横ばい状態である。

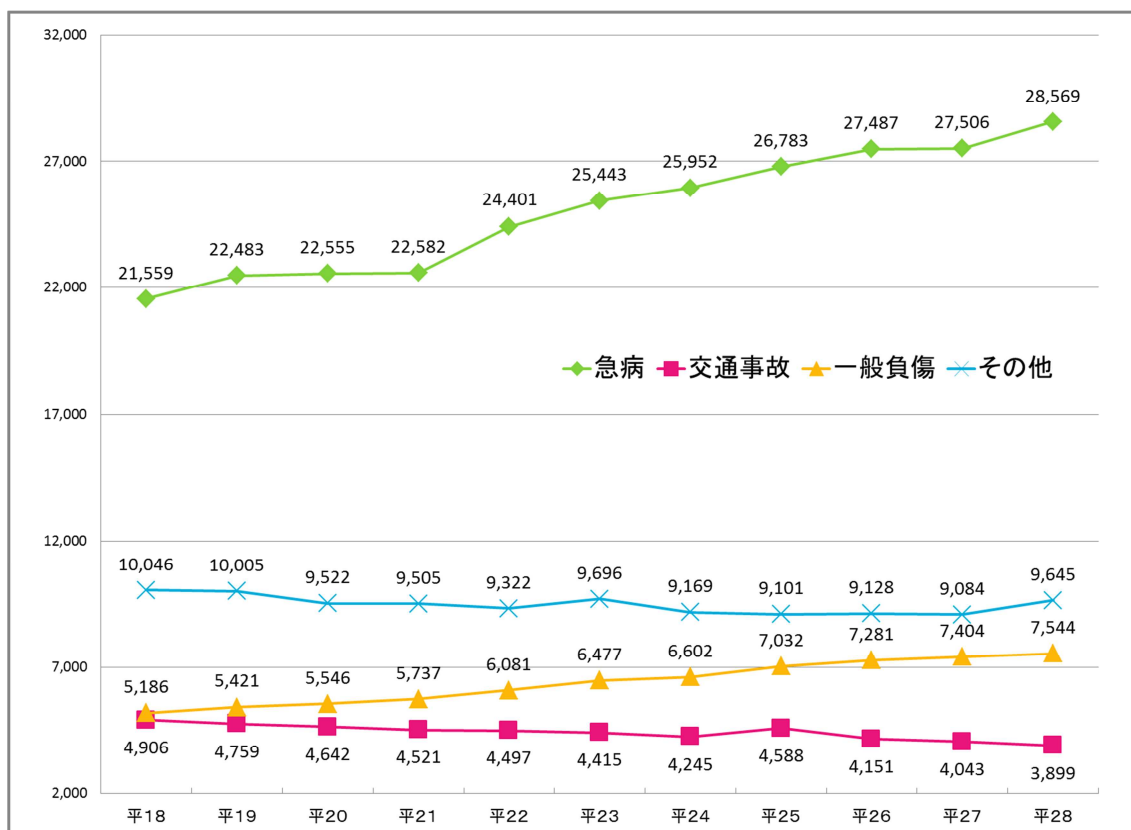
3. 傷病程度別搬送状況

「中等症」が【23,572人(47.5%)】と最も多く、次いで、「軽症」【17,190人(34.6%)】となっている。

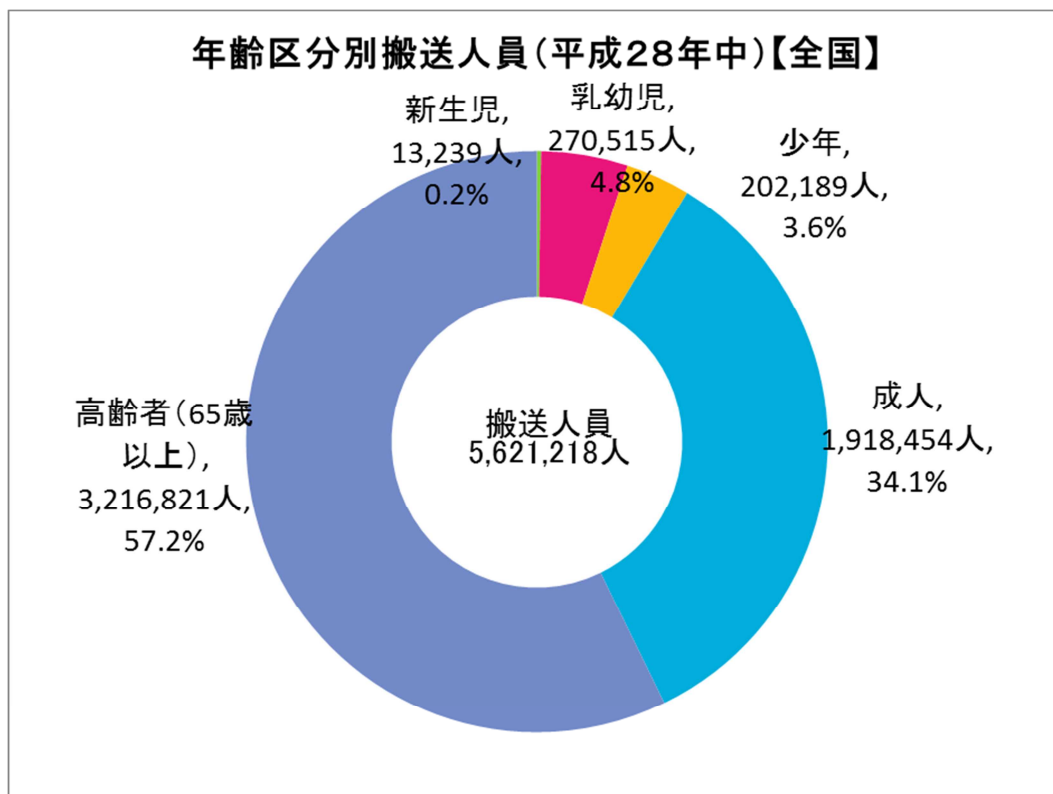
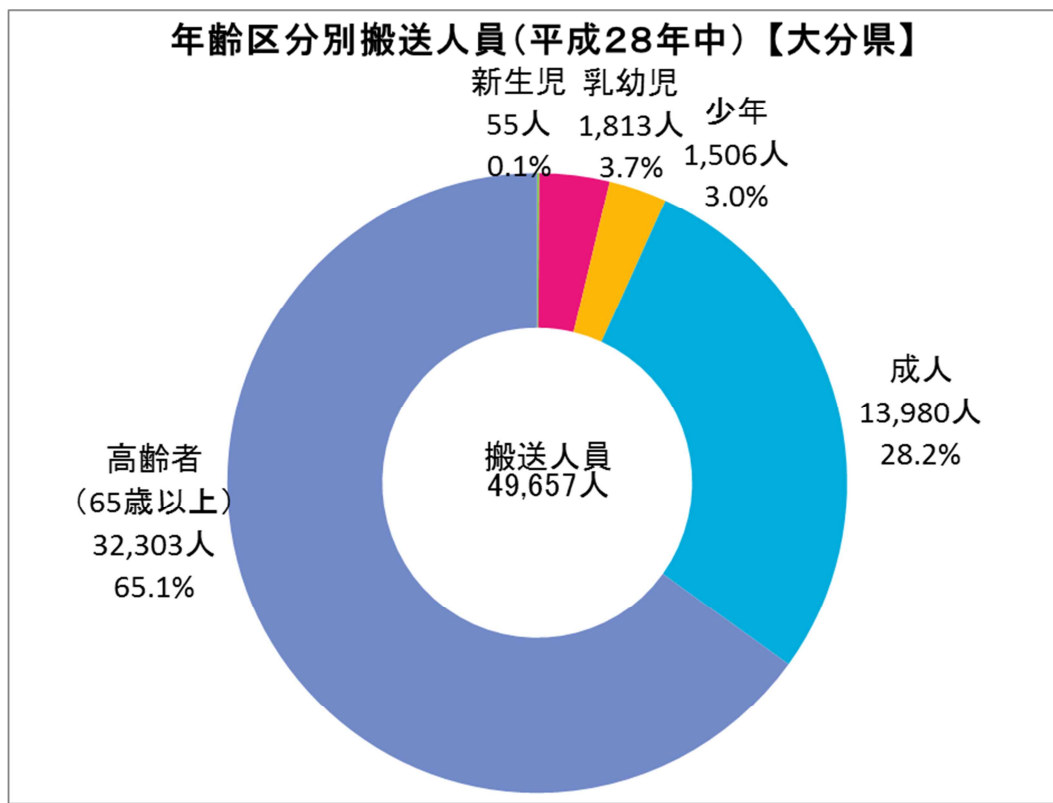
第5図 事故種別搬送人員



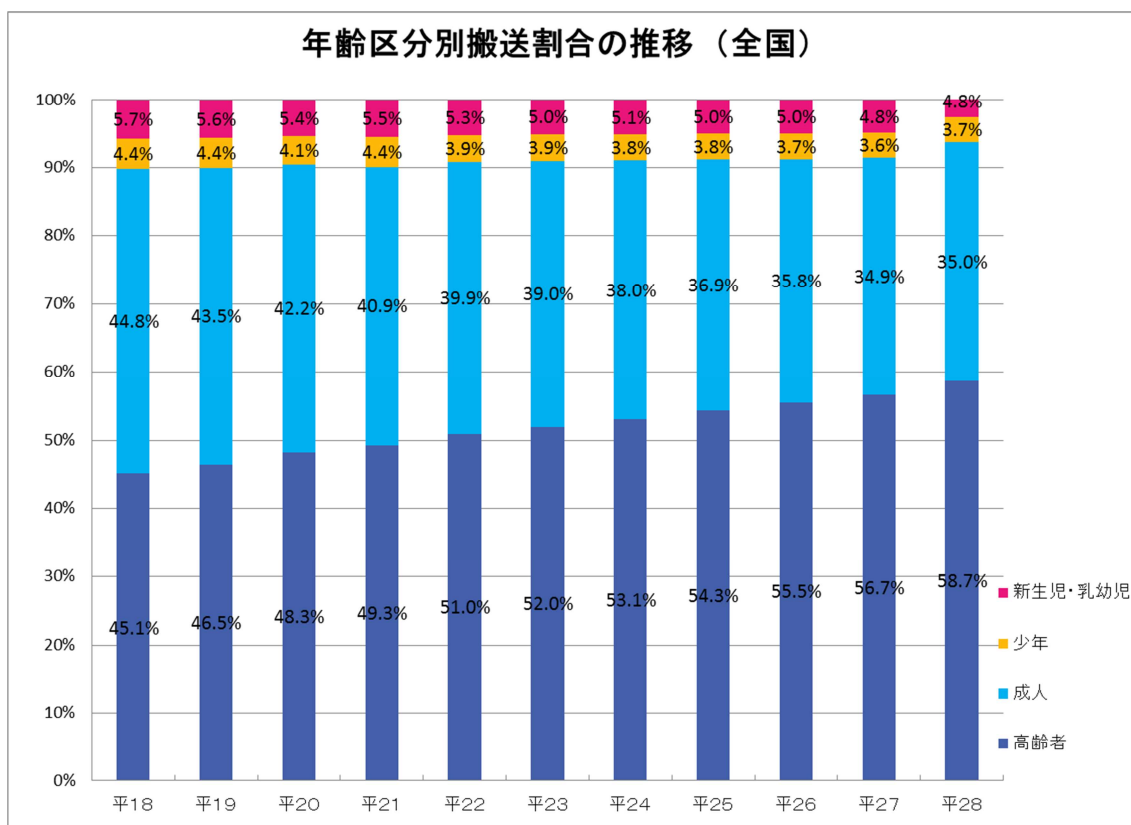
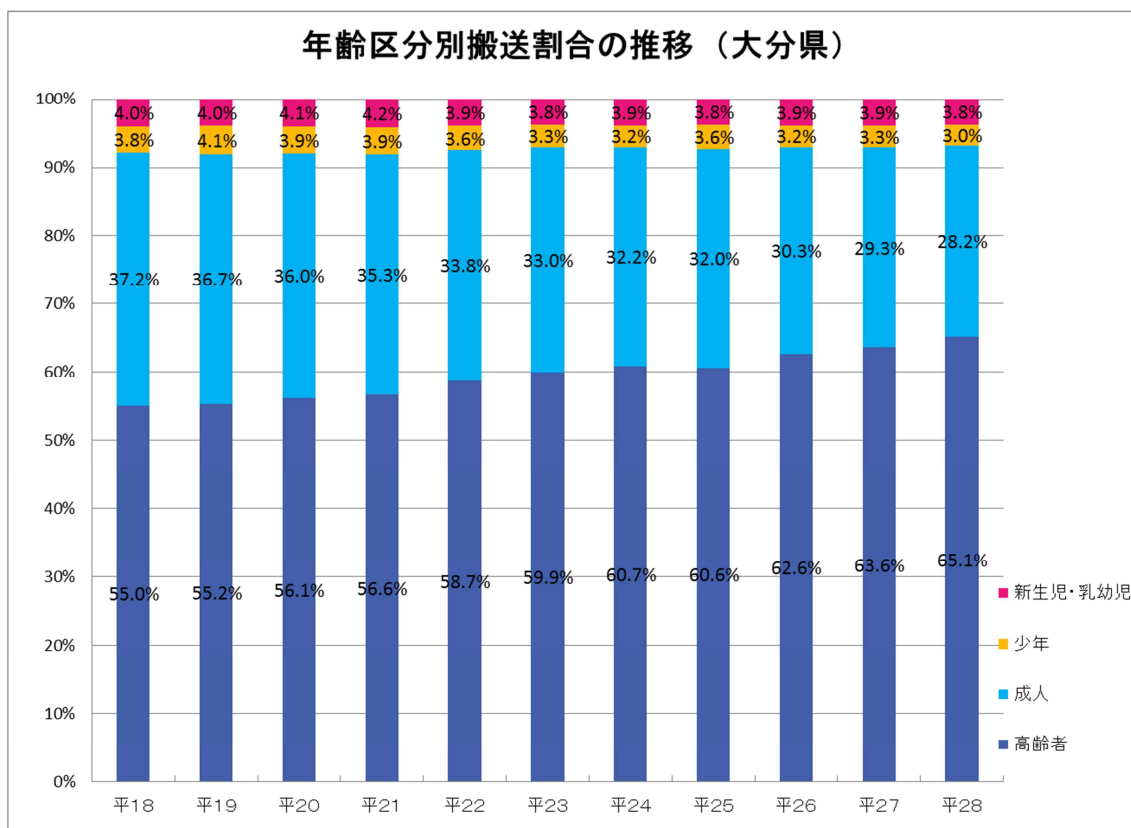
第6図 事故種別搬送人員の推移



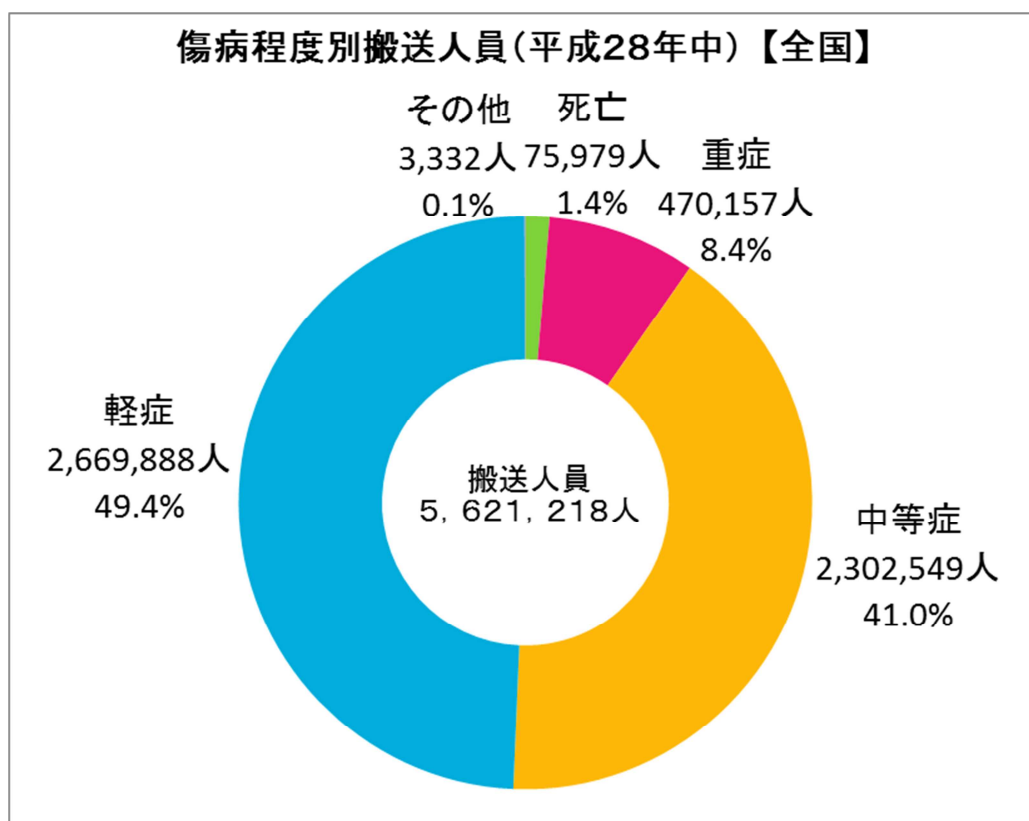
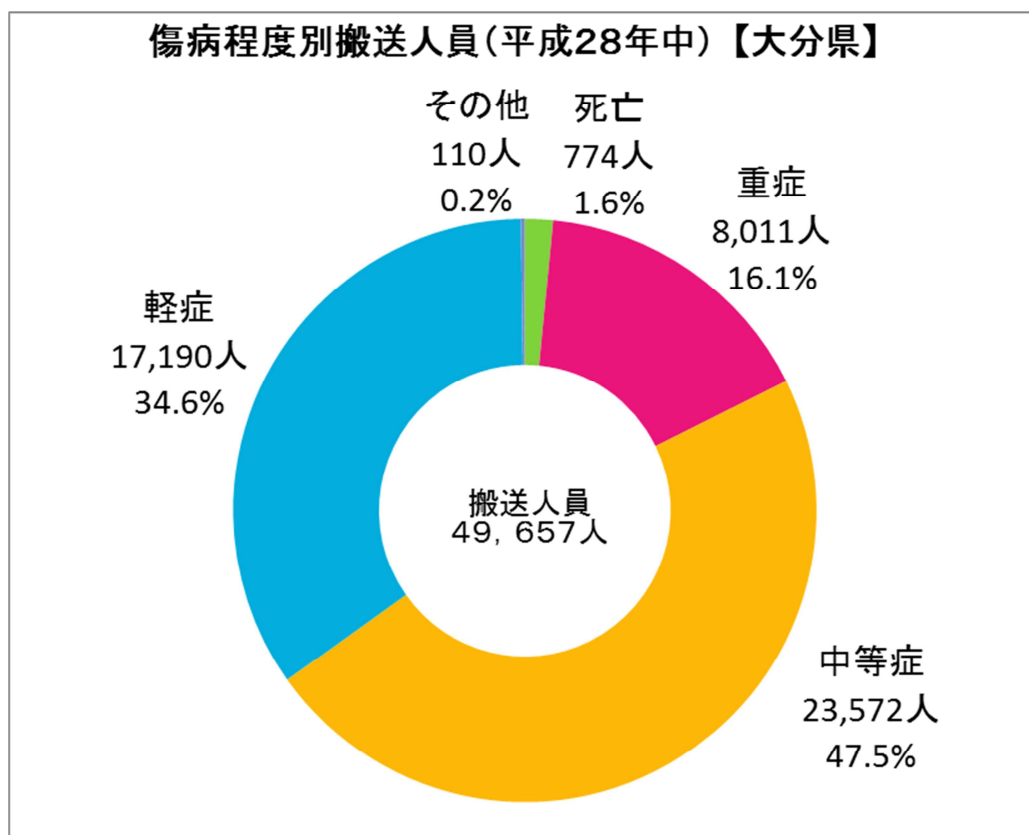
第7図 年齢区分別搬送人員



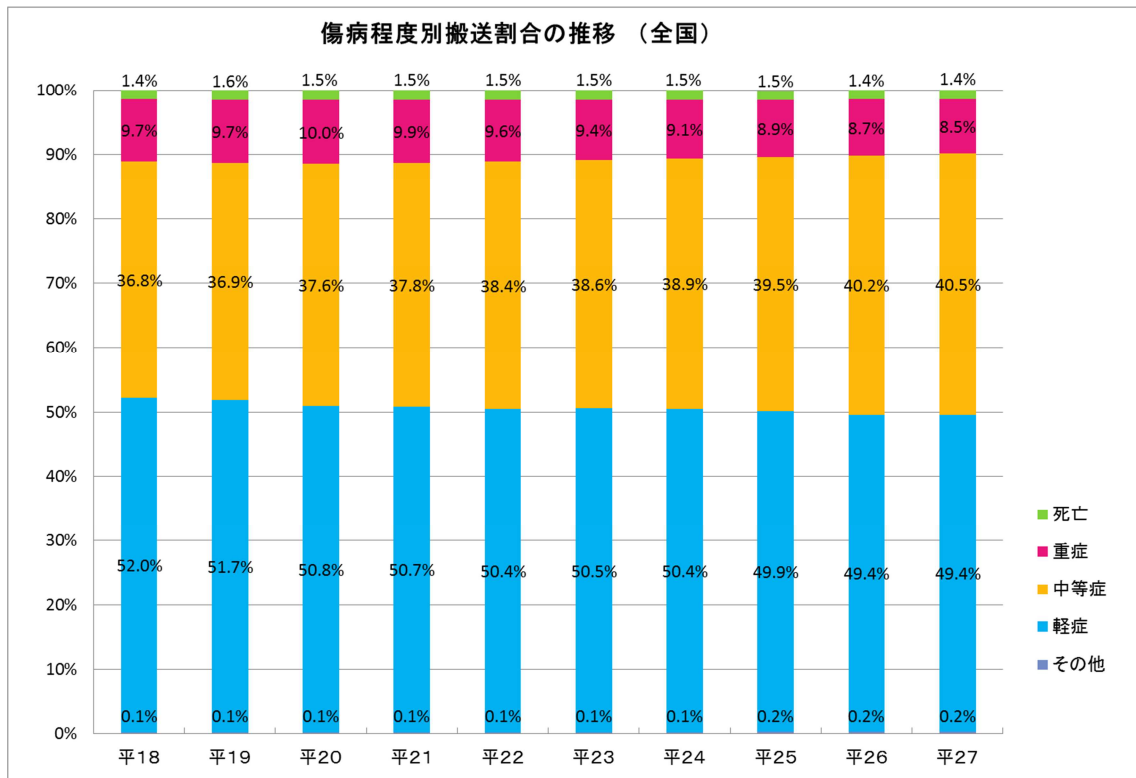
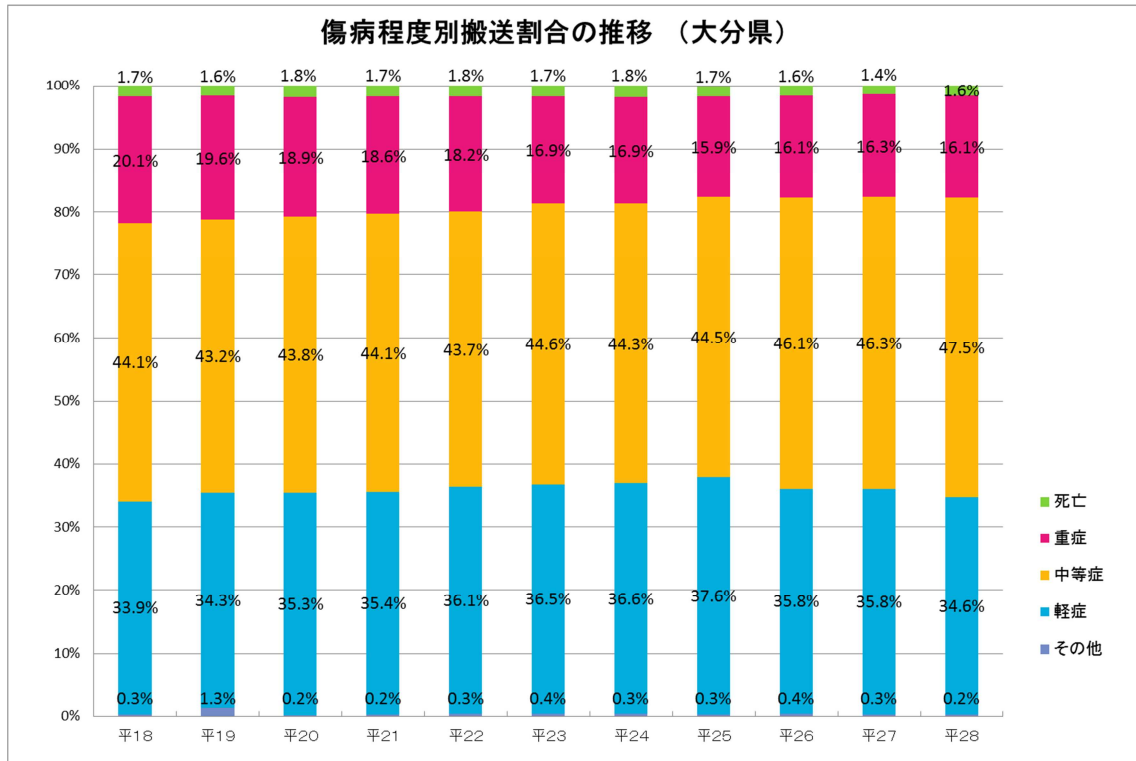
第8図 年齢区別搬送割合の推移



第9図 傷病程度別搬送人員



第10図 傷病程度別搬送割合の推移

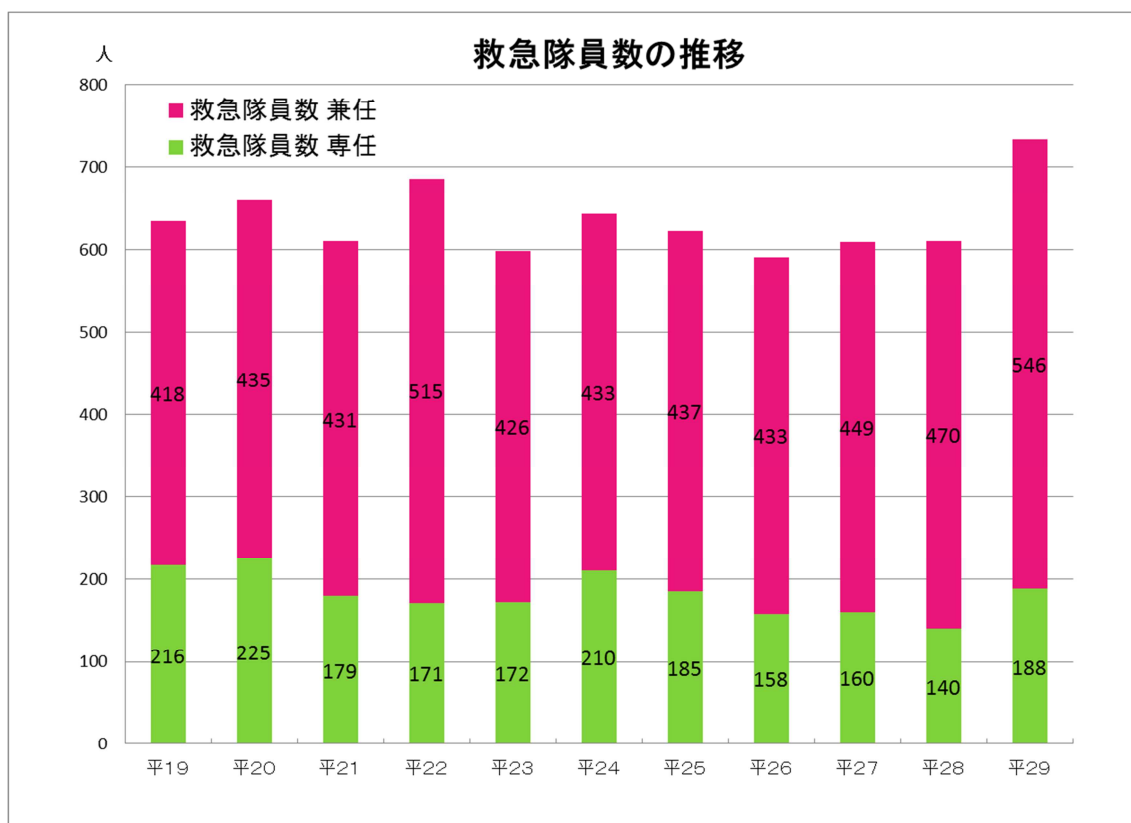


3 救急業務の実施体制

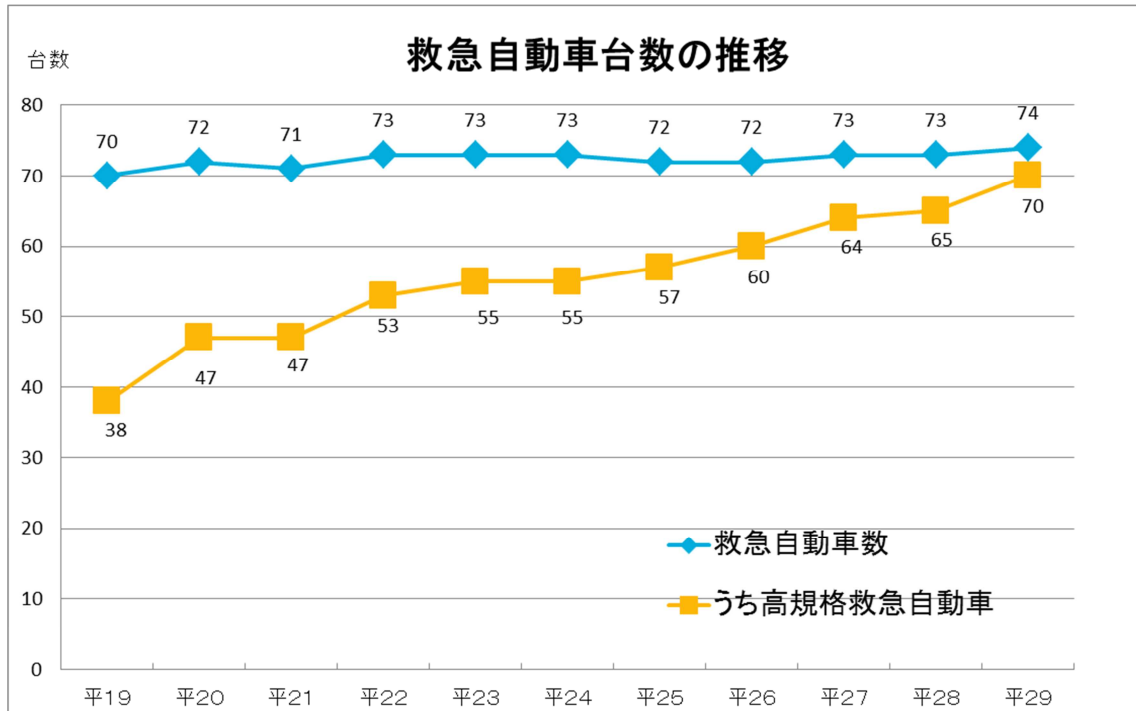
【平成 29 年 4 月 1 日現在の救急業務実施体制】

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 救急業務実施消防本部数 | 14 本部（前年同） |
| 2. 救急隊数 | 60 隊（前年同） |
| 3. 救急隊員数 | 734 人（前年比 124 人増） |
| 4. 救急自動車数 | 74 台（前年比 1 台増） |
| 5. うち高規格救急自動車 | 70 台（前年比 5 台増） |
| 6. 高規格救急自動車導入率 | 94.6 %（前年比 5.6 ポイント増） |
| | 【全国平均 95.3 %】 |

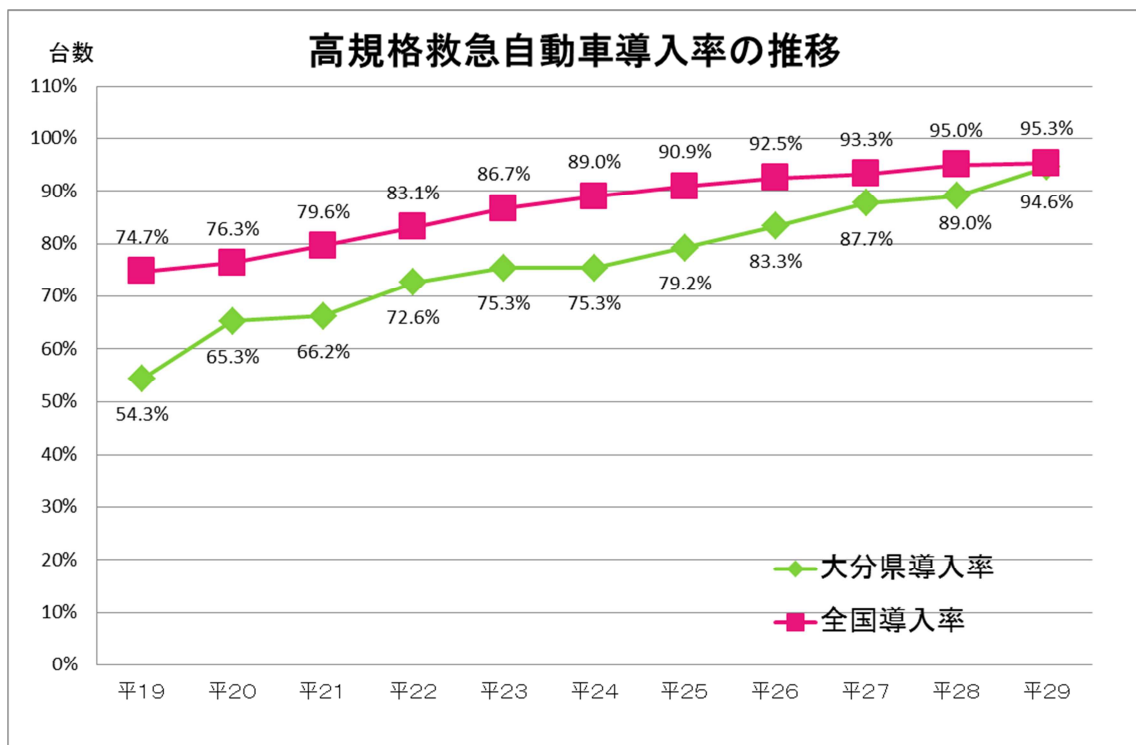
第 11 図 救急隊員数の推移



第 1 2 図 救急自動車台数の推移



第 1 3 図 高規格救急自動車導入率の推移



【平成 29 年 4 月 1 日現在の救急救命士活動状況】

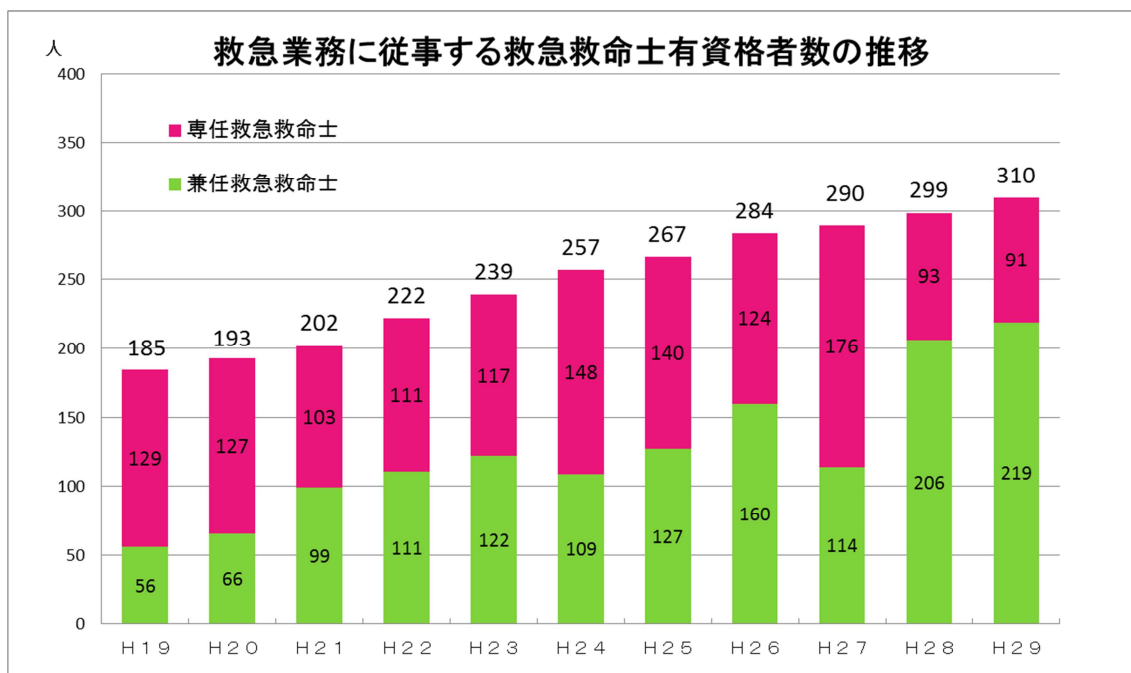
1. 救急救命士有資格者数	414 人（前年比 13 人増）
2. うち救急業務従事者数	310 人（前年比 11 人増）
3. うち救急業務専任者数	91 人（前年比 2 人減）
4. 救急救命士運用隊数	60 隊（前年同）
5. 救急救命士運用率	100 %（前年同）【全国平均 98.9%】

（救急救命士所属隊数／総救急隊数）

第 3 表 各消防本部における救急業務に従事する救急救命士数（単位：人）

消防本部	救急救命士 有資格者数	救急業務に従事する救急救命士		
		救急業務に従事する救急救命士		うち兼任
		うち専任	うち兼任	
大分市消防局	100	60	52	8
別府市消防本部	30	18	18	0
中津市消防本部	26	24	8	16
佐伯市消防本部	37	32	0	32
臼杵市消防本部	20	14	0	14
津久見市消防本部	13	12	0	12
竹田市消防本部	25	19	0	19
豊後高田市消防本部	14	14	0	14
宇佐市消防本部	25	20	7	13
豊後大野市消防本部	27	15	0	15
由布市消防本部	21	21	0	21
国東市消防本部	20	15	0	15
日田玖珠広域消防組合消防本部	35	35	0	35
杵築速見消防組合消防本部	21	11	6	5
県計	414	310	91	219

第14図 救急業務に従事する救急救命士有資格者数の推移

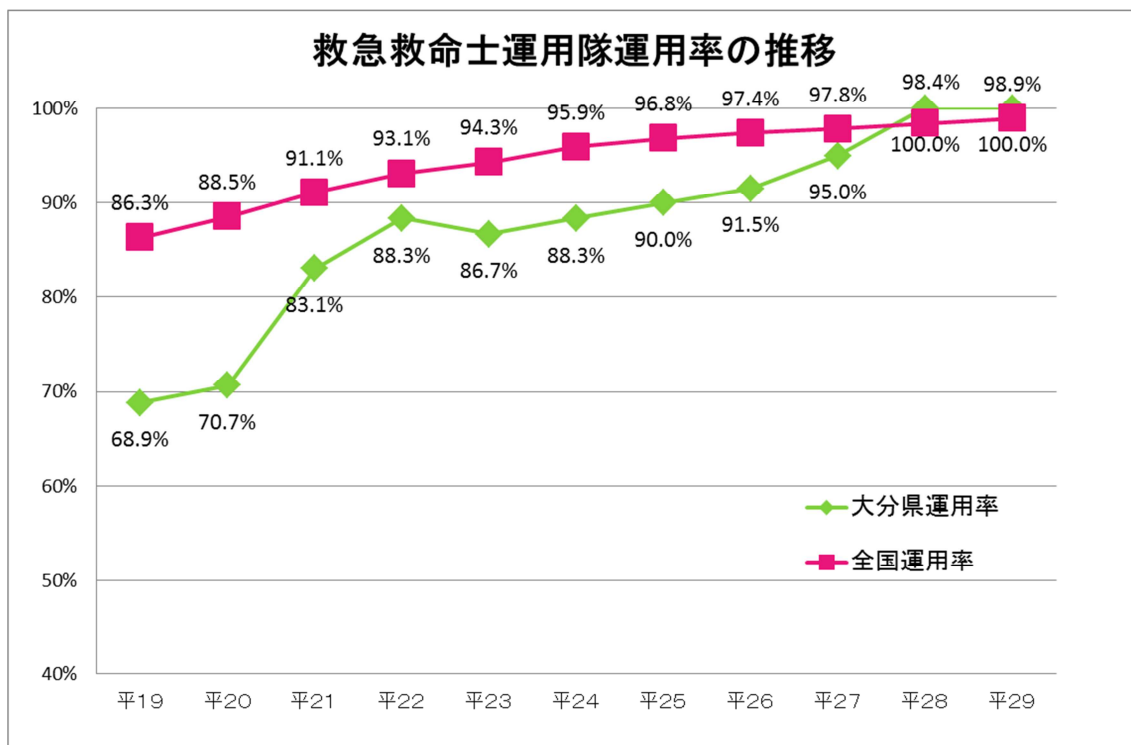


第4表 各消防本部における救急救命士運用率

(平成29年4月1日現在)

消防本部名	署所数	救急隊数	救急救命士運用隊数			
			運用隊数		うち常時	
			隊数	運用率	隊数	運用率
大分市消防局	14	12	12	100.0%	12	100.0%
別府市消防本部	4	4	4	100.0%	4	100.0%
中津市消防本部	3	4	4	100.0%	4	100.0%
佐伯市消防本部	5	6	6	100.0%	5	83.3%
臼杵市消防本部	2	3	3	100.0%	3	100.0%
津久見市消防本部	1	1	1	100.0%	1	100.0%
竹田市消防本部	2	3	3	100.0%	3	100.0%
豊後高田市消防本部	2	2	2	100.0%	2	100.0%
宇佐市消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
豊後大野市消防本部	4	4	4	100.0%	4	100.0%
由布市消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
国東市消防本部	4	4	4	100.0%	3	75.0%
日田玖珠広域消防組合消防本部	5	8	8	100.0%	5	62.5%
杵築速見消防組合消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
計	55	60	60	100.0%	55	91.7%

第15図 救急救命士運用率の推移



4 救急救命処置の実施状況等

【平成 28 年中における救急隊員による救急救命処置の実施状況】

気管挿管実施認定救命士及び薬剤投与実施認定救命士の増加により、器具による気道確保（気管挿管）、静脈路確保、薬剤投与の各特定行為実施件数は、前年より増加している。また、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与（以下、ショックへの輸液・ブドウ糖投与）が可能となっている。

1. 除細動	131 件（前年比 13 件増）
2. 静脈路確保	510 件（前年比 197 件増）
3. 器具による気道確保	369 件（前年比 64 件増）
うち気管挿管	134 件（前年比 31 件増）
4. 薬剤投与	134 件（前年比 31 件増）
5. ブドウ糖投与	25 件

第 5 表 救急救命処置実施件数（単位：件）

消防本部	除細動	静脈路確保	器具による気道確保		薬剤投与	ブドウ糖投与
				うち気管挿管		
大分市消防局	29	133	67	26	67	7
別府市消防本部	17	45	48	5	32	2
中津市消防本部	11	43	47	10	34	0
佐伯市消防本部	10	63	35	24	44	4
臼杵市消防本部	4	41	23	12	13	4
津久見市消防本部	2	12	4	3	6	0
竹田市消防本部	5	20	21	18	16	3
豊後高田市消防本部	5	9	18	1	11	0
宇佐市消防本部	12	31	27	4	19	0
豊後大野市消防本部	6	21	11	11	12	3
由布市消防本部	9	13	10	8	9	0
国東市消防本部	3	17	25	3	12	0
日田玖珠広域消防組合消防本部	8	45	22	9	32	0
杵築速見消防組合消防本部	10	17	11	0	3	2
県計	131	510	369	134	310	25

※「器具による気道確保」には、経鼻エアウェイにより気道確保を行った件数及び喉頭鏡・鉗子等を使用して異物除去を行った件数を除く

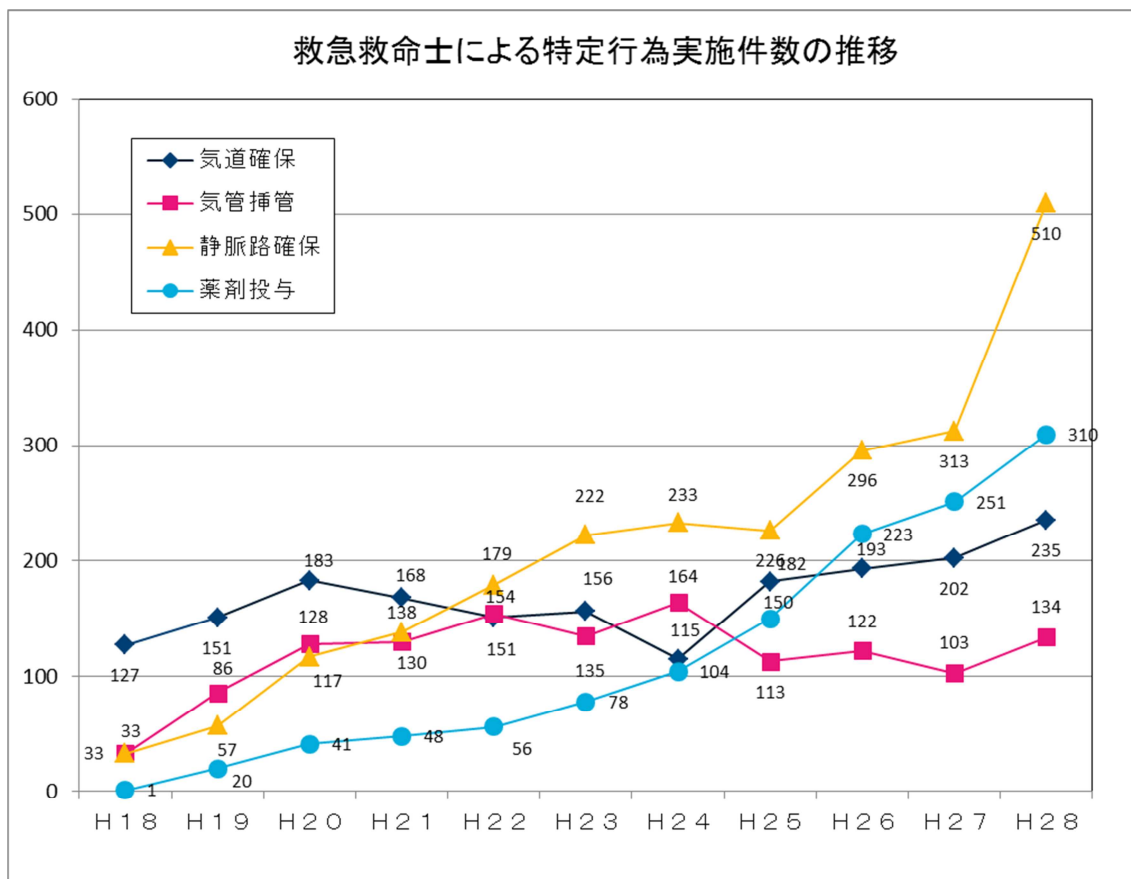
第6表 救急救命士による特定行為の実施状況

対象年	救急救命士数 (運用数)	気管挿管 認定者数	薬剤投与 認定者数	ショックへの 輸液・ブドウ 糖投与	対象年	救急出動 件数	気道確保 ※1	気管挿管 ※2	静脈路 確保	薬剤投与	ブドウ糖 投与
H19.4.1	185	30	18		平成18年	43,447	127	33	33	1	
H20.4.1	193	46	33		平成19年	44,666	151	86	57	20	
H21.4.1	202	71	73		平成20年	44,776	183	128	117	41	
H22.4.1	222	96	92		平成21年	44,754	168	130	138	48	
H23.4.1	239	106	148		平成22年	46,898	151	154	179	56	
H24.4.1	257	113	182		平成23年	48,679	156	135	222	78	
H25.4.1	267	116	215		平成24年	48,786	115	164	233	104	
H26.4.1	284	116	241		平成25年	50,491	182	113	226	150	
H27.4.1	290	114	261		平成26年	51,393	193	122	296	223	
H28.4.1	299	111	276	68	平成27年	51,393	202	103	313	251	
H29.4.1	310	119	281	167	平成28年	54,177	235	134	510	310	25

※1 救急救命士がラリソゲアルマスク等(LT、WB、CB、EGTA等)を使用して行ったもの

※2 救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行ったもの

第16図 救急救命士による特定行為実施件数の推移



【平成 28 年中における消防機関による応急手当普及講習の実施状況等】

平成 28 年中に消防機関が行った応急手当普及講習の修了者数は、10,188 人となっている。

第 7 表 応急手当普及講習修了者数の推移

区分	住民に対する応急手当普及講習修了者数		
	普通救命講習	上級救命講習	合計
平成18年	9,021	520	9,541
平成19年	11,599	301	11,900
平成20年	12,092	381	12,473
平成21年	9,767	412	10,179
平成22年	9,873	404	10,277
平成23年	9,939	361	10,300
平成24年	12,520	416	12,936
平成25年	11,032	323	11,355
平成26年	11,005	314	11,319
平成27年	12,586	332	12,918
平成28年	9,939	249	10,188
合計	119,373	4,013	123,386